



研究会・研修会等への

報告者・講師の派遣

(平成十三年十月)

平成十三年十二月

○第8回日韓農業シンポジウム

【楊口(ヤング)地域セミナー】

主催 韓国江原道大学・北海道

大学・楊口(ヤング)郡

とき 平成13年10月17日

テーマ 日本・北海道の農協によ

る産地育成実践事例

報告

黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○平成十三年度北海道農業経済

学会秋季大会シンポジウム

主催 北海道農業経済学会

とき 平成13年11月9日

テーマ 地域農業構造改革と農業

法人の可能性

報告 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○長沼農民塾

主催 JAながめま

とき 平成13年11月15日

テーマ 世界の食料需給の現状と

見通し

講義 七戸長生

(当研究所・所長)

○長沼農民塾

主催 JAながめま

とき 平成13年11月15日

テーマ 地域農業の構造改革

講義 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○旭川市農業生産組織一研修会

主催 旭川市

とき 平成13年11月20日

テーマ 地域農業の確立を目指し

た多様な取り組みに学ぶ

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○美瑛集落代表者研修会

主催 JA美瑛

とき 平成13年12月3日

テーマ 北海道農業の課題とこれ

からの経営政策

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○共和町収穫感謝祭農業講演会

主催 共和町

とき 平成13年12月4日

テーマ 地域農業支援のための

労働力補完システム

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○農業フォーラム in あつま

主催 厚真町

とき 平成13年12月6日

テーマ 地域に根ざした農業生産

と地産地消の拡大

コーディネーター

黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○平成十三年度地域農業問題総合

研修会パネルディスカッション

主催 北海道地域農業研究所

とき 平成13年12月14日

テーマ 北海道農業活性化の方策

をさぐる

コーディネーター

黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○平成十三年度農業経営指導マ

ネージャー等研修会

主催 北海道農業会議・北海道

農業経営改善支援センター

とき 平成13年12月19日

テーマ 新経営政策で農業者に求

められる課題と経営改善

の支援

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

◆◆◆雑誌等への投稿◆◆◆

黒澤不二男

「大規模畑作経営構築のための

DATA FILE

関連事項/ DATA

(財) 北海道農業開発公社

〒 060-0005
札幌市中央区北 5 条西 6 丁目
☎ 011(271)2231

ホクレン農業協同組合連合会

〒 060-8651
札幌市中央区北 4 条西 1 丁目 3 番地
☎ 011(232)6108 広報宣伝課

北海道大学 農学部

〒 060-8589
札幌市北区北 9 条西 9 丁目
☎ 011(716)2111

日本女子大学

〒 112-8681
東京都文京区目白台 2-8-1
☎ 03(5981)3507

北海道 農政部

〒 060-0003
札幌市中央区北 3 条西 6 丁目
☎ 011(231)4111

J A 北海道中央会

〒 060-0004
札幌市中央区北 4 条西 1 丁目
☎ 011(232)6405

J A ようてい

〒 044-0011
虻田郡倶知安町南 1 条東 2 丁目 5-2
☎ 0136(21)2311

黒松内町

〒 048-0192
寿都郡黒松内字黒松内 302 番地 1
☎ 0136(72)3311

(社) 北海道地域農業研究所

〒 064-0004
札幌市中央区北 4 条西 7 丁目 1
☎ 011(281)2566
E-mail: kaihou@chiikinouken.or.jp

支援策のあり方」

ニューカントリー

2001年 12月号

北海道協同組合通信社

黒澤 不二男

「新経営政策の課題と農業者の
対応」

北方農業 2001年12月号

北海道農業会議

黒澤 不二男

「北海道における労働集約型作
物導入と普及の取り組み」
技術と普及 V・O・39

2002年1月号
全国農業改良普及協会

編集後記

今回の特集今村先生の講演を再度読み返してみても、どんな業種でもポリシーと意欲を持ったリーダーが育つならその地域は元気になるということを改めて感じた。「不況でリストアップされた人よさあらい」というような気概を持つて北海道農業の振興策を考えたい。
加工野菜の現状のレポートも興味深い。農協・系統が生産した農産物

に、さらに付加価値を付ける事はもっと果敢に取り組む必要がある。日本の食品の流通は複雑で、おまけに消費者にも気を遣わなければならぬ。しかし様々な試行錯誤なしにヒット商品は生まれない。近鉄の中村選手ではないけども「全球ホームラン」をねらうような研究スタッフと、それを支える経営者が必要だろう。今年は北海道産のヒット商品を期待したい。系統がそのような加工に乗り出すのは既存の取引に摩擦が生じたり、開発費用の心配もある。今まで取り組んだこともない失敗したらどうしようという気持ちも理

解できる。しかし当然生じるリスクを共に担うための協同組合ではないか。

お詫びと訂正

「地域と農業」第43号(秋号)に誤りがありました。

P33 図2下段の単位

200000→20000
400000→40000
600000→60000
800000→80000
1000000→100000
1200000→120000
1400000→140000

お詫び申し上げます。訂正いたします。